

京都府漁海況情報

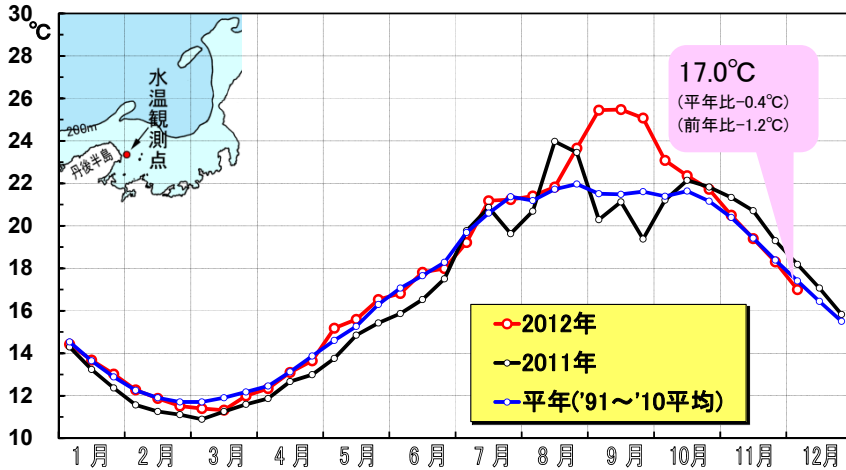
京都府農林水産技術センター海洋センター 海洋調査部
<http://www.pref.kyoto.jp/kaiyo/>
 電話:0772-25-3078 FAX:0772-25-1532

海の状況

【現況】

12月上旬における京都府沿岸の表層水温は、平年よりやや低めで推移していました。

京都府沿岸の表層水温（新井崎地先 50m 深）



【今後の見込み】

資料元：気象庁，(独)日本海区水産研究所

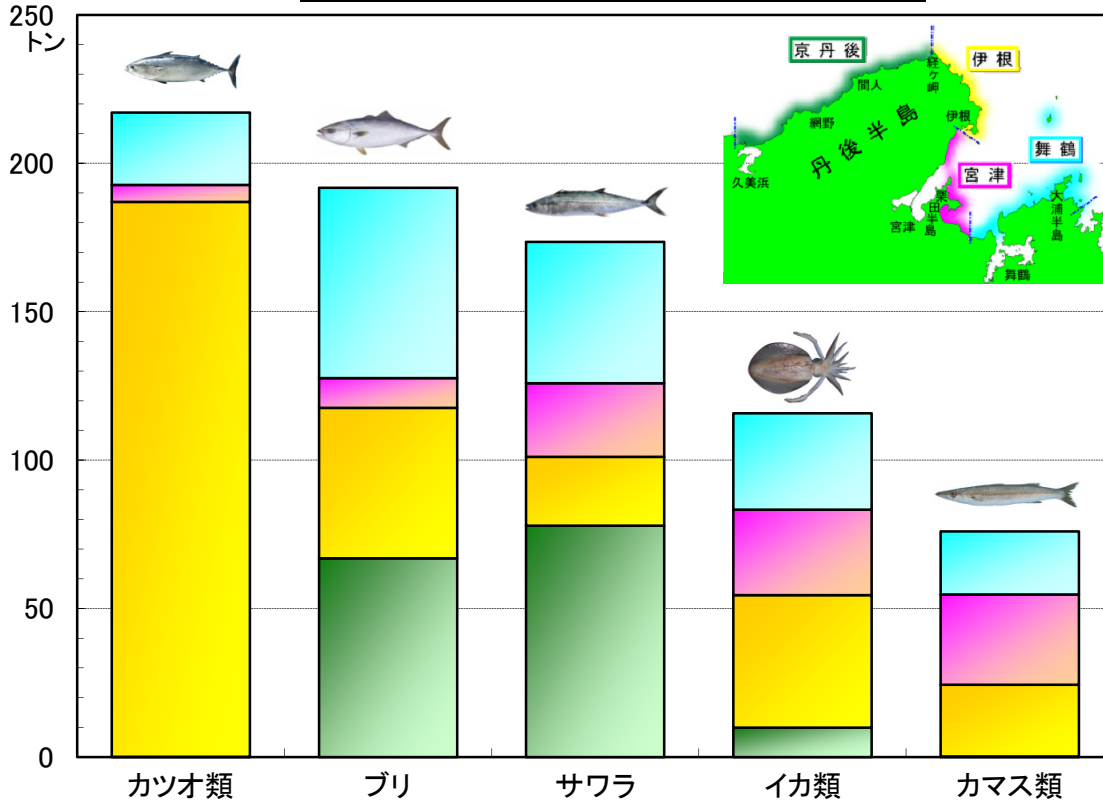
向こう1か月程度の予報	
京都府周辺の表層水温	「平年並み～平年より低め」で推移する見込み
対馬暖流の勢力	「平年並み」で推移する見込み

漁模様 ～2012年11月～

【定置網漁業】

ソウダカツオやブリ(つばす銘柄), サワラなどが好漁で, 全体の水揚量は前年および平年を上回りました。

2012年11月の地域別漁獲量(上位5魚種)

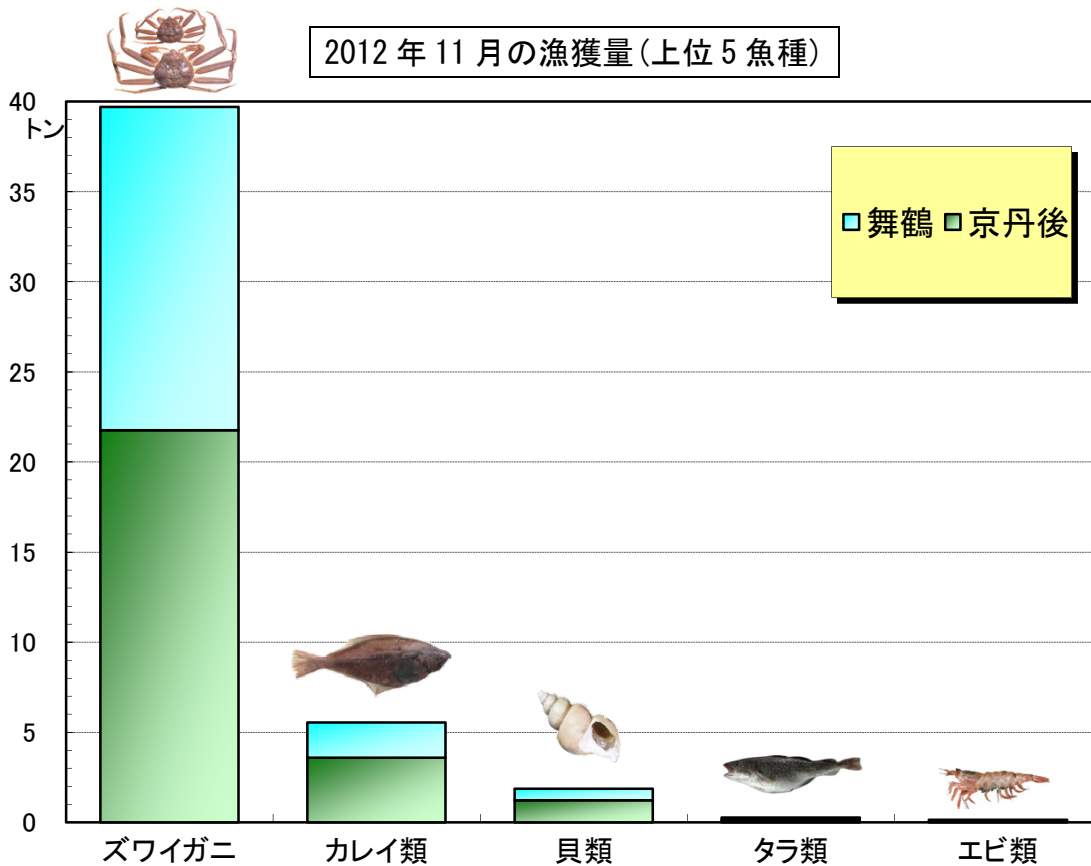


11月漁獲量(トン) 京都府漁連集計					
魚種	2012年	2011年(前年比)	平年(平年比)	備考	
カツオ類	217.1	31.3 (694%)	36.3 (598%)	<カツオ類> 小型のマルソウダ(尾さ長 21~25cm 級)が中心で, 上旬に多く水揚げされました。 <ブリ> つばす銘柄(尾さ長 33~38 cm 主体)が中心で, はまち・まるご・ぶり銘柄は若干量でした。 <サワラ> さごし銘柄(尾さ長 40~50cm 主体)が 7 割弱, さわら銘柄(尾さ長 60~90cm 級)が 3 割強でした。 <イカ類> アオリイカ(秋いか)が 55.7 トン, ソデイカ(たるいか)が 41.5 トン, ケンサキイカ(白いか)が 17.6 トンなどでした。	
ブリ	191.8	60.2 (318%)	112.6 (170%)		
サワラ	173.6	163.4 (106%)	163.7 (106%)		
イカ類	115.7	121.0 (96%)	90.3 (128%)		
カマス類	75.9	61.8 (123%)	29.2 (260%)		
シロサバフグ(さんきゅう)	42.0	25.7 (164%)	16.1 (261%)		
カワハギ(丸はぎ)	35.5	26.6 (133%)	37.0 (96%)		
マアジ	35.1	93.1 (38%)	166.0 (21%)		
ヒラマサ	25.8	0.5 (5090%)	7.1 (363%)		
シイラ	24.6	61.2 (40%)	31.1 (79%)		
その他	98.4	178.8 (55%)	234.7 (42%)		
合計	1035.4	823.6 (126%)	924.0 (112%)		

平年は過去 10 年平均

【底曳網漁業】

荒天続きで出漁機会に恵まれず、全体では平年の6割弱の水揚げでした。



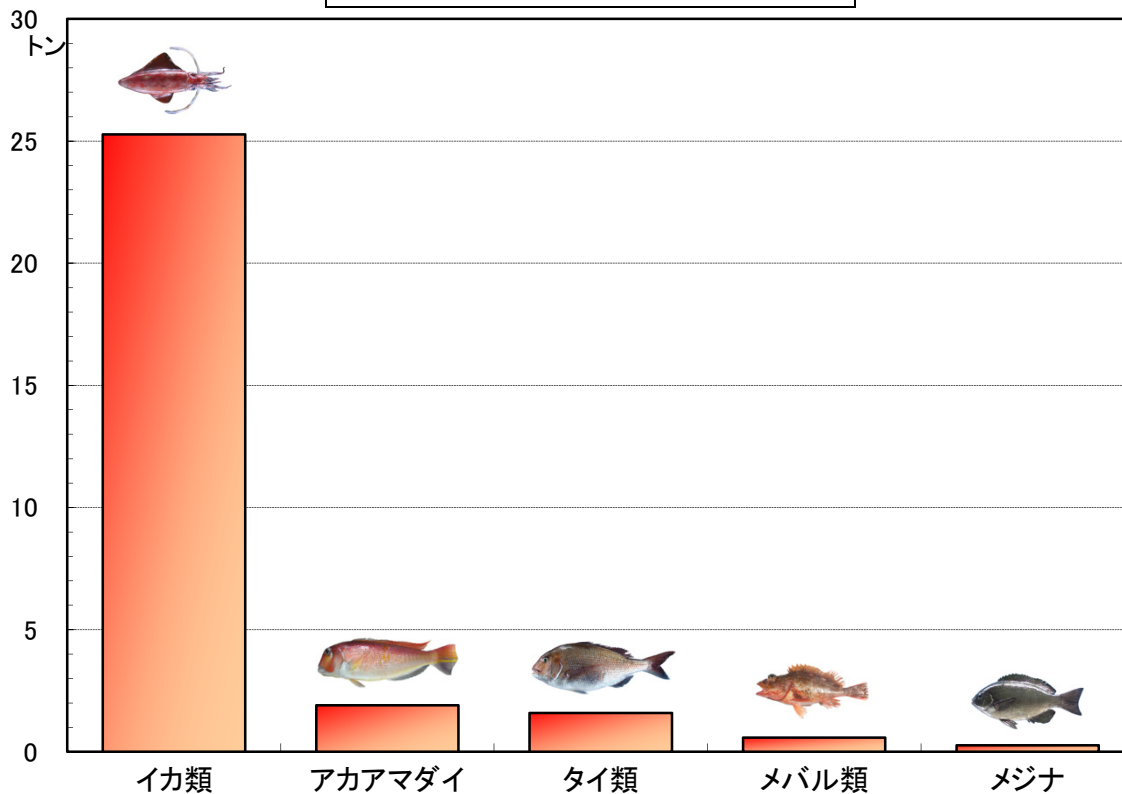
11月漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2012年	2011年(前年比)	平年(平年比)	備考
ズワイガニ	39.7	41.8 (95%)	57.5 (69%)	<ズワイガニ> 6日に漁が解禁となり、雄ガニ(間人がに・舞鶴かに)が15.0トン、雌ガニ(こっぺ)が24.7トンでした。 <カレイ類> アカガレイ(まがれい)が4.1トン、ヒレグロ(黒かれい)が1.4トンなどでした。
カレイ類	5.5	17.0 (33%)	19.3 (29%)	
貝類	1.9	2.4 (79%)	2.0 (91%)	
タラ類	0.3	0.1 (229%)	0.1 (186%)	
エビ類	0.1	0.3 (56%)	0.2 (60%)	
その他	0.2	1.3 (13%)	4.1 (4%)	
合計	47.7	62.9 (76%)	83.4 (57%)	

平年は過去10年平均

【釣り・はえなわ漁業】

ソデイカが好漁でした。全体の水揚量は平年および前年をやや上回りました。

2012年11月の漁獲量(上位5魚種)



11月漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2012年	2011年(前年比)	平年(平年比)	備考
イカ類	25.3	15.6 (162%)	11.9 (212%)	<イカ類> ソデイカ(たるいか)が23.2トン、 ケンサキイカ(白いか)が1.3トン、 アオリイカ(秋いか)が0.8トンなど でした。 <タイ類> マダイが7割強、レンコダイが2 割弱、クロダイが1割弱でした。
アカアマダイ(ぐじ)	1.9	2.6 (74%)	2.9 (65%)	
タイ類	1.6	4.2 (38%)	3.0 (53%)	
メバル類(もいお)	0.6	0.3 (174%)	0.3 (172%)	
メジナ(つかや)	0.3	0.2 (143%)	—	
ヒラマサ	0.3	0.1 (289%)	0.2 (125%)	
ブリ	0.3	0.8 (31%)	2.4 (10%)	
スズキ	0.2	0.1 (226%)	0.1 (163%)	
マアジ	0.2	0.3 (74%)	1.2 (16%)	
イシダイ(たかば)	0.1	—	0.3 (48%)	
その他	3.4	6.9 (50%)	5.1 (68%)	
合計	34.1	31.0 (110%)	27.6 (124%)	

平年は過去10年平均

【寒ブリの大漁】

2012年12月13日(木)に舞鶴市の大型定置網(田井水産経営)で寒ブリの大量入網があり、保冷車と定置運搬船により京都府漁連舞鶴市場に約6000尾が水揚げされました(下写真)。

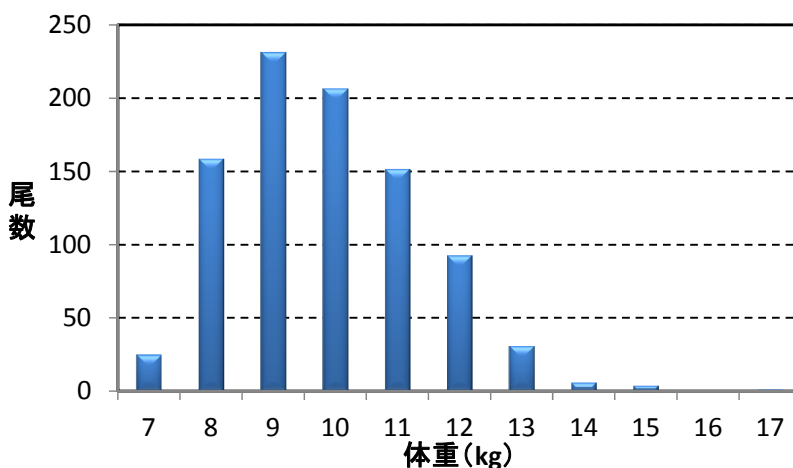


定置運搬船の魚倉から移送される寒ブリ



魚市場内で1尾ずつ丁寧に箱詰め

体重9kg~10kg級が漁獲の中心で(下図)、これらは2009年産まれの3歳魚とみられます。



寒ブリの体重組成(調査個体910尾)

局地的なブリ大漁の詳しい原因は分かりませんが、

①ブリの資源量が高位水準であること(水産総合研究センター調べ)

②11月以降の相次ぐ低気圧の通過と寒気の流入で海水温の低下が進み、若狭湾周辺海域への南下回遊が促された可能性

などの影響が考えられます。他の漁場でも今シーズンに脂の乗った寒ブリがたくさん獲れることを期待します。

【謝辞】

前号などで分析用のソウシハギを依頼したところ、橋本水産、栗田漁業生産組合、養老漁業株式会社、湊漁業株式会社、新井崎水産(順不同)など多くの関係者様よりご提供頂きました。皆様のご厚意に感謝いたします。